

令和5年度「地域におけるこども・若者育成支援研修

～地域における多様なアプローチを学ぶ～」に関するシラバス

【初 日】令和5年11月22日(水)

～こども・若者政策の動向～

〔こども家庭庁〕

～本研修コーディネーターによる研修説明～

〔文教大学人間科学部准教授／独立行政法人国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター副センター長 青山 鉄兵〕

【2日目】令和5年11月27日(月)

○地域におけるこども・若者育成の事例に学ぶ

(発表者からの日頃の活動についての説明後、参加者との意見交換を実施)

司会進行

・文教大学人間科学部准教授

独立行政法人国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター副センター長 青山鉄兵

～こども青少年を対象とした尼崎市の取組～

〔尼崎市こども政策監 能島裕介〕

【プロフィール】

兵庫県神戸市生まれ。関西学院大学在学中、阪神・淡路大震災に被災。被災した子どもたちを対象にした支援活動を展開。大学卒業後、株式会社住友銀行を経て、2000年に特定非営利活動法人ブレインヒューマニティー設立。同法人理事長に就任。同法人において子どもたちを対象にした野外活動、国際交流、不登校支援、学習支援など幅広い活動を展開。2013年、尼崎市参与就任。2017年、同法人理事長退任。2022年、尼崎市理事、教育次長就任。2023年から尼崎市こども政策監を務める。

【講義概要】

尼崎市では2019年にワンストップで子どもたちの支援を行う「あまがさき・ひと咲きプラザ」を開設し、虐待、不登校、発達障がい、ひきこもりなどの困難を抱えるこども青少年の支援を行うとともに、日常的にこども青少年の活動を支援する尼崎市立ユース交流センターを開設した。本講義においてはこれらの取り組みについて紹介し、地方自治体におけるこども青少年の支援のあり方について検討を深める。



～こども・若者とともに地域をつくる取組～

〔特定非営利活動法人秋田県南NPOセンター 南部市民活動サポートセンター次長 奥ちひろ〕

【プロフィール】

1986年、秋田県生まれ。子どもの居場所づくりに関心があり、大学在学中からNPO活動に参加。卒業後、2009年より秋田県南NPOセンターにて市民活動サポートセンターの運営、若者会議の企画・運営等を担当する。現在は地元企業の経営企画室、日本青年館青年問題研究所の常任研究員等を兼務。

【講義概要】

全国に広がりを見せている「若者会議」の発端は、2009年の秋田に見ることができる。少子高齢化や人口減少により地域課題が多様化・複雑化する中で、これから生きる若者が自分の住むまちの当事者として地域について考え、話し合い、行動する場として生まれた「若者会議」は、そこに集う若者にとって「やりたいことが見つかる場」「仲間とともに成長できる場」「サードプレイス」であり「セーフティネット」となっていた。これを推進する上でうまくいったポイントや課題となったことについて共有し、こども・若者を支えるために必要なことを考えていきたい。



【3日目】令和5年11月28日(火)

○地域におけるこども・若者育成の方法論

～ユースワークの理念と方法～

〔日本福祉大学講師 両角達平〕

【プロフィール】

日本福祉大学 社会福祉学部 専任講師／静岡県立大学国際関係学研究科附属 CEGLOS 客員共同研究員／国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター客員研究員。

88年生まれ長野県出身。若者の生活世界を再構築するための実践・社会のあり方について、ヨーロッパ(特にスウェーデン)の若者政策、ユースワーク、若者参画の視点から研究・実践。著書「若者からはじまる民主主義—スウェーデンの若者政策」(萌文社)。

【講義概要】



日本よりもはるかに社会の流動化、複雑化が進むヨーロッパにおいては2000年前後から若者政策が成立し、各国ごとに子ども・若者の余暇の保障や育ち、社会的包摂を担う実践の枠組みは異なるも、実践主体としてユースワークが位置付けられてきた。ヨーロッパの若者政策の展開は、日本における2009年成立の子ども若者育成支援推進法設置の際に参考にされてきており、近年では欧州のユースワークを参考にした実践が日本各地でも展開されている。本講義では、若者支援の理念と方法について、ヨーロッパにおける若者政策とユースワークに着目して理解を深め、日本の若者支援の現場における展開を考える。

～多様なニーズに応じた居場所づくり～

〔特定非営利活動法人サンカクシャ代表理事 荒井佑介〕

【プロフィール】

1989年埼玉県出身。大学生時代からホームレス支援や子どもの貧困問題に関わり始める。生活保護世帯を対象とする中学3年生の学習支援に長く関わっていたが、高校進学後に、中退、妊娠出産、進路就職で躓く子達を多く見たことから、NPO法人サンカクシャを立ち上げる。サンカクシャでは、15歳から25歳前後までの親や身近な大人を頼れない若者の「居場所」「住まい」「仕事」の3つをメインの支援として実施している。

【講義概要】

サンカクシャの実践を通じて、虐待や貧困などの影響により周りの大人に頼れず孤立する若者たちへの支援のあり方を考える。居場所の意義と葛藤、若者へのアウトリーチのあり方について考える。



○フィールドワーク

東京周辺の子ども・若者の育成に関わる取組や活動等を展開している施設・団体を訪ね、各施設・団体が子ども・若者にアプローチする上で大切にしている事や工夫している事等を学ぶ。

〔b-lab(文京区青少年プラザ)〕

【ホームページ】<https://b-lab.tokyo/>

施設の正式名称は「文京区青少年プラザ」で、中高生に愛称を募集し「文京区の実験室＝Bunkyo Laboratory」を略して表記した「b-lab(ビーラボ)」となった。認定NPO法人カタリバが運営する文京区内初めての中高生専用施設。中高生の「挑戦したい」意欲を駆り立てる多目的施設であり、「談話スペース」「スタジオ」「プレイヤード」など様々な設備が整っている。中高生が自主的な活動を通じて自らの可能性を広げ、社会性を養い自立した大人への成長を支援する場となることを目指している。



〔アップス(世田谷区立希望丘青少年交流センター)〕

【ホームページ】<https://ups-s.com/index.html>

世田谷区が公益財団法人児童育成協会に委託し運営する、世田谷区内では3つ目となる「青少年交流センター」であり、コンセプトは「家にも学校にもないものを。」主に39歳までの若者が気軽に立ち寄り、思い思いに過ごすことができるフリースペースとして開設された。施設には自由にくつろぐことのできる多目的スペース、音楽・ダンス等の表現活動のできる多目的ホールのほか、学習室、音楽スタジオ、調理室等、様々な機能を備えている。若者をサポートする専門スタッフ「ユースワーカー」や地域のスタッフ等が活動の支援や、悩み相談に乗ってくれている。



〔調布市青少年ステーション CAPS〕

【ホームページ】<https://www.chofu-caps.net/>

NPO法人ちょうふ子どもネットが運営する中高生世代のための児童館。家、学校ではない、中高生世代が安心安全に過ごすことのできる第三の居場所施設をコンセプトに、人それぞれ「仲間と過ごす」「ダンス・音楽の練習をする」「勉強をする」「イベントを企画する」「スタッフと話す」「寝る」「ボーっとする」等、自由に過ごすことができる。オンライン上でも「CAPS オンライン」として居場所を開設しており、オンライン上でスタッフと話したり学習の相談に乗ってもらうことが

できる。



〔特定非営利活動法人サンカクシャ〕

【ホームページ】<https://www.sankakusha.or.jp/>

15 歳から 25 歳くらいまでの親や身近な大人を頼れない若者に、「生きていくための基盤」として、「安心できる居場所」「社会に出て働くためのサポート」「住まい」の 3 つの支援を展開している。豊島区内に安心して自由に過ごすことのできる居場所を構え、その中に e スポーツ施設を設け既存の支援にはなかなか意欲を持ってないが、ゲームがきっかけなら行ってみようと思える若者が気軽に遊びに来られる場を提供している。そこまで来れない若者には家庭訪問してまずスタッフと信頼関係を築く「アウトリーチ」活動にも取り組んでいる。また、「居場所」を作るだけでなく、地域企業の協力を得て仕事体験プログラムを行うなどの就職支援、シェアハウス（豊島区、北区、板橋区に 4 拠点）の提供など、若者が自分の将来と向き合い自立するための様々なサポートを行っている。



〔国立市公民館・青年室事業「コーヒーハウス」〕

【ホームページ】

<https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/soshiki/Dept08/Div05/event/0053/1521783674485.html>

1970 年代半ば頃、一般的には公民館から若者離れが進む中、国立市公民館ではコーヒー片手に「ワイワイガヤガヤしながら、青年たちが自由に語りあえる雰囲気」を大切にする「コーヒーハウス」と名付けられた青年たちの「たまり場」活動が始まり、今日でも障害や生きづらさなど

多様な背景がある若者たちの「居場所」として機能している。公民館1階の青年室と喫茶「わいがや」を活動拠点に、10代から30代ごろまでの若者たちが、障害の有無に関わらず共に楽しみ、学び合う活動を続けている。



〔フリースペースえん(川崎市子ども夢パーク)〕

【ホームページ】<https://www.tamariba.org/en/>

川崎市子ども夢パーク内にある、学校や家庭・地域の中に居場所を見いだせない子どもや若者が安心して過ごせる居場所。決められたカリキュラムはなく、一人ひとりが自分でその日どのように過ごすのかを決めて活動する。民族楽器の演奏、ものづくり、野外活動、合宿など自主企画の講座やイベントが開かれており、自由に参加できる。



〔特定非営利活動法人ピアサポートネットしぶや〕

【ホームページ】<https://peersupport.jp/>

渋谷区恵比寿に活動拠点をおき、不登校やひきこもり、ニート等の困難な状態にある子ども・若者を支援しており、アウトリーチ(訪問支援)も積極的に行っている。家族支援にも力を入れており、定期的に「親の会(家族会)」を開催し、テーマを決めての話題提供や専門家など講師を招いた学習会を行っている。



【最終日】令和5年11月29日(水)

○これからのこども・若者育成のあり方を考える

〔文教大学人間科学部准教授／独立行政法人国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター副センター長 青山 鉄兵〕

【プロフィール】

専門は社会教育・青少年教育。東京大学大学院博士課程、桐蔭横浜大学助教等を経て現職(平成26～30年度文部科学省生涯学習調査官を兼務)。現在、こども家庭審議会こどもの居場所部会委員、日本YMCA同盟常議員、等を兼務。プロフィール

【講義概要】

地域におけるこども・若者の育成/支援について考えるとき、子ども・若者を「育成/支援される側」だと捉えるだけでは不十分でしょう。とはいえ、子ども・若者の自発的・主体的な活動を尊重しつつ、そうした活動に向けて必要な支援をすることはなかなか容易ではありません。また、地域の中で子ども・若者に関わるさまざまな機関・団体のネットワークを形成することや、1つの事業ごとに関わる人々の働きをどのようにコーディネートしていくかも、重要な課題と言えます。

この時間では、1日目、2日目の研修で学んだことを踏まえて、地域コミュニティの中で子ども・若者の活動にどのように関わり、どのようにして共に地域をつくっていくのかについて、ワークショップ形式でみなさんと議論していきます。

